

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公表番号】特表2009-545364(P2009-545364A)

【公表日】平成21年12月24日(2009.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-051

【出願番号】特願2009-522415(P2009-522415)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/46 (2006.01)

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 F 2/40 (2006.01)

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/46

A 6 1 B 17/56

A 6 1 F 2/40

A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月15日(2010.6.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一の骨の一部分を第二の骨に移植するのに有用な医療器具において、それが：

互いに平行に延びかつ互いに間隔を置かれた平行な軸を持つ二つの管を持つ二重管カニューレを含み、

前記二重管カニューレが、ハンドルを運ぶ近位端、及び前記管の内部を観察することを可能にする前記管のそれぞれに窓を持って形成された遠位端を持つことを特徴とする医療器具。

【請求項 2】

前記ハンドルが前記二つの管の軸に対して 40°～65°の軸を有することを特徴とする請求項 1 に記載の医療器具。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の医療器具からなる第一医療器具と、把持装置を含む第二医療器具とを含み、前記把持装置が、ハンドルを持つ近位端、第二の骨の遠位側と係合可能なフックを持って形成された遠位端、及び前記フックを第二医療器具の前記ハンドルに向けてまたは前記ハンドルから離れるように移動するための把持装置の前記近位端により運ばれる移動可能な指状片を含むことを特徴とする医療キット。

【請求項 4】

第二医療器具の前記ハンドルが軸に固定され、前記フックが前記指状片により前記ハンドルに向けてかつ前記ハンドルから離れるように前記軸内で移動可能である棒の遠位端で運ばれることを特徴とする請求項 3 に記載の医療キット。

【請求項 5】

前記把持装置が前記ハンドル上にねじ込まれたナットをさらに含み、このナットが前記ハンドルに関して一つのまたは他の方向に前記ナットをねじ込むことにより前記ハンドル

の同じ軸方向に動くように前記指状片と係合可能であることを特徴とする請求項 4 に記載の医療キット。

【請求項 6】

第一の骨の一部を通して互いから正確な距離にある二つの平行な穴を作るためのドリルをさらに含み、

前記ドリルが、前記穴の一つを作るためのドリルビット、及び正確な距離に第二の穴を穿孔するのに使用するためのドリルビットの軸に平行な軸を持ちかつその軸から正確な距離を持つドリル案内を含むことを特徴とする請求項 3 に記載の医療キット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の幅広い態様によれば、第一の骨の一部を第二の骨に移植するのに有用な医療器具であって、それが、互いに平行に延びかつ互いに間隔を置かれた平行な軸を持つ二つの管を持つ二重管カニューレを含み、前記二重管カニューレが、ハンドルを運ぶ近位端、及び前記管の内部を観察することを可能にする前記管のそれぞれに窓を持って形成された遠位端を持つことを特徴とする医療器具が提供される。本発明は、第一の骨の一部を第二の骨へ移植するための関節鏡下の方法に特に有用である。それは次の工程：(a) 医療器具の導入のための入口を開けるために小さな切開を作る；(b) 前記第一の骨の前記部分にねじ穴を穿孔する；(c) 前記第一の骨の前記部分に第一カニューレを取付ける；(d) 前記第一の骨から前記部分を分離する；(e) 前記第一の骨の前記分離した部分を前記第二の骨上に配置する；(f) 前記分離した骨の部分にカニューレ挿入された装置により取付けられた第二カニューレにより前記第一カニューレを置き換える；(g) カニューレ挿入された装置を通して案内ワイヤーを導入する；(h) カニューレ挿入された装置を除去する；(i) 前記案内ワイヤーにより案内されたカニューレ挿入されたドリルにより第二の骨中に穴を穿孔する；(j) 案内ワイヤーを除去する；そして(k) 第一の骨の前記分離した部分の前記穴及び前記第二の骨の前記穴を通して骨ねじを付与する；を含む。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の好適な実施態様は、前肩不安定性、または第一の骨の一部を第二の骨に取付けるために少なくとも二つの骨ねじを使用することが望ましい他の疾患を治療するために以下に述べられる。かかる方法では、工程(b)において、互いから固定された距離で二つのねじ穴が第一の骨の前記部分に穿孔され；工程(c)において、第一カニューレがT-ハンドルカニューレであり、それが縫合糸またはフレキシブルワイヤーにより前記第一の穴に取付けられ；工程(f)において、第二カニューレが二重管カニューレであり、それが二つのカニューレ挿入された装置により第一の骨の前記部分に取付けられ；工程(g)において、二つの案内ワイヤーが二つのカニューレ挿入された装置を通して導入され、これらのカニューレ挿入された装置が次いで工程(h)で除去され；工程(i)において、二つの穴が前記案内ワイヤーにより案内されたカニューレ挿入されたドリルにより第二の骨中に穿孔され；工程(j)において、二つの案内ワイヤーが除去され；そして工程(k)において、二つの骨ねじが第一の骨の分離された部分の二つの穴、及び第二の骨の二つの穴を通して付与される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

本発明はまた、追加の医療器具を提供し、それは特に上述の骨移植法のために有用なキットで供給されることができる。